Save The Tropical Forests

ウータン 99

Hutan

森の通信 2010.12.21

表紙写真）1999年、Telapakのハプソロ（右）、レイさんと大阪・岸和田港で、偶然シンガポール産という違法ラミン材を発見！ ウータン、ラミン調査会がここから【STOP! Ramin キャンペーン】や違法材停止活動への契機に。

CONTENTS

- People ⑱ ハリソン・フォード …… 3P
- 中カリマンタン・タンジュンプティン国立公園での環境教育（その1） …… 4P
- CBD10「Save! オランウータン STOP! 違法材」名古屋集会報告 …… 6P
- 世界の森林ニュース …… 18P
- ウータン99号によせて …… 19P

Save The Tropical Forests
ウータン Hutan
森の通信
2010.12.21 99

ウータン100号を目の前にして……　永田健一

もう20年も前になる。
私は大阪の職業訓練校で家具づくりを学ぶため木工科に通っていました。ある日、誰からか署名用紙が回ってきた。
それが、マレーシア・サラワク州の森に暮らす先住民プナン族が森林伐採に抗議してブロッケード（道路封鎖）をしているというものでした。
ショックを受けた。今まで何も考えず使っていたラワンベニヤ、合板が現地の先住民の暮らしをおびやかしていること……
署名集約先に問い合わせてみると、大阪に熱帯林保護活動をしているグループがあるという。それが「ウータン」でした。
とにかく、一度集会に訳もわからず行ってみることにした。そこには、いつもせわしなくしゃべっている事務局長の西岡さん、弁護士の大西さん、おだやかな井下さんらの顔があった。
種々多様なメンバーがそろいかけつつあり、このあと熱帯材不使用に向けた自治体キャンペーンへと活動していくことになる。そんな中で私ができることはと思っていましたところ、森の通信「ウータン」の原稿をまとめ印刷へ出稿する仕事をやらしてもらい、現在までつづいております。（途中少しぬけていますが）
ウータンも通信もよーく続いています。継続は力なり！

【ウータン・活動報告】

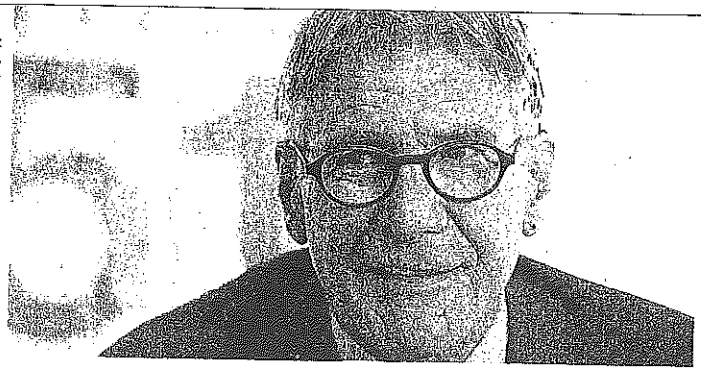
2010・9・28　CBD10名古屋(生物多様性条約第10回締約国会議)参加へ、打合せ会議
9・29　招聘のTelapakヤヤット氏、BOSトグ氏、Titianユユン氏へCBD参加申込み確認
10・5　通信「ウータン98号」発刊。CBD10名古屋へ最終打合せ会議。
10・10　CBD10(生物多様性条約締約国会議)開催へPR、＊西岡、石崎、JATAN名古屋で
10・22　「生物多様性―トラとオランウータンと私たち」東京集会をFoEJapan等と開催。ゲスト講演はトグ・マヌルン、ヤヤット・アフィアント氏等　＊西岡
10・23　「Saveオランウータン、シベリアタイガー　Stop!違法材」名古屋集会をJATAN名古屋等と開催。ゲスト＊トグ・マヌルン、ヤヤット・アフィアント、ユユン・クルニアワン氏
10・24－29　CBD10(生物多様性条約第10回締約国会議)に参加。＊春日、笠原、高坂、石崎、西岡、日下部
10・29夜　CBD10名古屋の議定書採択ほぼ確定と海外等へメール発信　＊西岡
10・30未明　CBD10名古屋議定書採択さる。
11・20　気候ネットワーク集会へ参加　＊西岡

People 地球 save! the World's Forests

Harrison Ford

ハリソン・フォード さん (68)

CBD10名古屋に『生物種 生態系保全を!』と訴えに来日の『インディ・ジョーンズ』H・フォードさん



いで20年ほど前、米国の代表的な環境NGOの理事長に電話して、自分ができることを探った。意気投合し、すぐメンバーに。

すでに「スター・ウォーズ」「インディ・ジョーンズ」シリーズで知られた映画俳優だった。人々に自然保護の問題を伝えることが、自分の役割だと思った。

NGOの副理事長として戦略を練り、組織運営にも携わる。ジャングルを縦横に駆け回る行動的な考古学者のヒーローさながらに、南米を中心に5カ国以上の現場に足を運んだ。実際に見て印象に残ったのは「熱帯地域の森林破壊。そこに住む人々への悪影響は甚大だ」。

2年前には熱帯雨林破壊の痛みを訴える30秒のキャンペーンビデオに登場。自らの胸毛を森の木々に見立て、エステサロンでバリッとはぎ取られる。真剣な表情で演じたが、「とても恥ずかしかった……」。

南米では手つかずの自然がエコツーリズムで観光客を呼び込み、現地を貧困から救う様子に感銘を受けた。「自然を守ることは、人々にとっても幸せを呼ぶ成功物語になる」

文・神田明美　写真・川津陽一

滞在は2日半。多忙なハリウッドスターは、自然保護の国連会議に参加するために名古屋を訪れた。「世界のリーダーに自然に対して責任をとるよう働きかける」。複数の政府代表団と会い、保護区の目標を高くするよう求める。

「父親でもあり、地球を次世代に残していく責任がある」。そんな思

2010年(平成22年)10月28日　木曜日

10/30日 ～彼は帰国後もコンサベーション・インター副理事長として、世界へメール送信。『世界の生態系は危機だ。毎20分種が消滅する。人間の活動、特に森林破壊等が問題』と。「これから10年、いかに世界の生物多様性社会保全が進むかどうか」とハリソン・フォード氏がきう。

Harrison Ford

Dear Nishioka,

The world's biodiversity is in trouble. Around the world, a species is lost every 20 minutes. And human activity, including overfishing, polluting and deforestation, is largely to blame.

If you've been following the e-mails you've received recently from Conservation international (CI), these facts might be all too familiar. Now, I want to let you know what we're doing about them.

I'm on the ground this week with CI's delegation at the Convention on Biological Diversity (CBD) meeting in Nagoya, Japan. World leaders are here working on an agreement to create global biodiversity conservation targets for the next 10 years.

The decisions made here in Nagoya will be crucial to determining how much progress the world makes over the next decade in its efforts to preserve biodiversity. CI is at the table to make sure those decisions are good ones.

Today, I hope you'll consider supporting this longstanding leadership in the field of biodiversity conservation. Your gift of $25 will help us continue the fight for every species on Earth —from the algae that oxygenate our oceans to hyper-intelligent primates like the endangered bonobo.

差出人: Harrison Ford<community@conservation.org>
題名: Show your support of biodiversity
送信日時: Sat 10/30/2010 02:23:57 JST
宛先: fwpc3808@mb.infoweb.ne.jp

中カリマンタンのタンジュン・プティン国立公園での環境教育（その1）

（市川美穂）

♪　リンバラヤ　リンバラヤ　マリ　キタ　ブルニャニ～　♪
（深い森　深い森　みんなで歌いましょう）
♪　ムムジ　ウータン　リンバ　デンガン　ハティ　ヤン　グンビラ～　♪
（うれしい気持ちで深い森をほめたたえましょう）

子どもたちの明るい歌声がインドネシア国カリマンタン島タンジュン・プティン国立公園内の森に響きわたる。

今日は、この国立公園に隣接するタンジュン・ハラパン村での月に1回の環境教育の日。主催はFNPF（フレンズ・オブ・ナショナル・パークス・ファンデーション）。参加者は村の子どもたち23人。その後ろに村の小学校教師や保護者たち。FNPF、村の小学校、村人の協働事業だ。

FNPFでは、2005年から次世代への環境教育に取り組んでいる。2010年1月からは毎月、村の小学生を対象として環境教育を実施している。この事業の担当者はFNPF若手スタッフのアルバイン。FNPFのリーダーであるバスキは、子ども好きのアルバインを適任者として任命した。今日はアルバインにとって3回目のチャレンジ。

当日のプログラム内容

プログラムは朝7時半にスタート。全員がボートに乗り込み、対岸の国立公園へ移動。木道を通り、森の中を歩く。木にネームプレートがつけられている所で立ち止まる。子どもたちが木の名称や特徴を熱心にメモっていた。

さらに少し歩くと、小屋に到着。休憩後、アイスブレイク開始。動物の鳴き声をまねて、鳴き声を探し当てるゲーム、みんなで一列になり生き物のつながりを体感するゲームを行い、緊張がほぐれていく。

みんなのテンションが上がったところで、植物についてお勉強。FNPFスタッフ、小学校教師、村人が1つずつ苗を持って、その木の名称、どんな実ができるか、どんな役い道があるかなどを説明。子どもたちへ伝えたいことがたくさんあるのがうかがい知れた。

その後、今回の担当者であるアルバインが提案した料理づくりのアクティビティ。グループごとに自分たちの昼食をつくる。野菜を切って、炒めて、味付けして・・・。ガスは使わず薪の火を使う。料理ができたら、森から葉を探してきて、即席のお皿にのせていただきます！アルバインは森で生きる知恵を子どもたちに残したいと思い、このアクティビティを企画したそうだ。

最後に、全員で冒頭の歌を大合唱して終了。みんなの心はひとつになっている。

いつもはシリアスなバスキも「子どもモードにするのは大変」と言いながら、心から喜んでいる様子であった。

参加した子どもたちへのインタビュー

プログラムの休憩時間に、参加している子どもたち 11 人に質問してみた。

Q. 将来、都会かタンジュン・ハラパン村のどっちに住みたい？

A. 村に住みたい。景色もいいし、森があって落ち着くから。(全員)

Q. すごくお金持ちになったら何が欲しい？

A. 家(8 人)、畑のための土地(1 人)、車(1 人)、何も要らない(1 人)

みんな自分たちの村が大好きなのがわかった。この環境教育プログラムによって子どもたちがますます村を好きになったことだろう。

参加してみて

違法伐採から脱却し、森と共に生きていくこと選んだタンジュン・ハラパン村。この希望(=ハラパン)の村を継続させていくためには、子どもたちへの環境教育が欠かせない。

この環境教育事業は単に森を守るためではなく、お互いに協力することや、仲間を思いやることなども学ぶ機会となる。私は村が一丸となって取り組んでいる姿に大変感動した。お互いがお互いを思いやり、大人たちは子どもたちを細やかにサポートしている。日本では失われつつあることがそこにはあった。私たち日本人が見習うべき良い取り組みだと思った。

私たちが村を発つ日、タンジュン・プティンで使えそうな環境教育ゲームをアルバインに教えた。お礼の気持ちと今後の継続を願う気持ちを込めながら。

CBD10／10月23日『Save!オランウータン, Stop!違法材』名古屋集会

=「オランウータンの棲む熱帯の森、カリマンタンからの報告」=

BOSF(ボルネオ・オランウータン・サバイバル・ファンド)議長兼CEO　Togu Manurungさん

(写真左＊orangutan　右＊Togu Manurung(トグ・マヌルン氏)

BOSF のビジョンは地域参加型の保全によりボルネオのオランウータンとその生息地を守っていくことです。オランウータンとその生息地を守っていくためには、地域社会の参加が不可欠だということを強調しておきたいと思います。私たちは、東カリマンタン地域と中カリマンタン地域でオランウータンを森に帰す事業をすすめると同時に、東カリマンタンでは1850haの荒れ地に多様な樹種を植えて森を回復させるプログラム、そして、中カリマンタンでも生息地の保全を行っています。両地域のリハビリセンターには合計838頭のオランウータンが収容され、このうち中カリマンタンの事業は世界最大の規模となっています。

オランウータンリハビリセンターは自然保護地域のなかで運営されていました。初期には医療施設はなく、人間との接触に適切な制限を加えることもせず、逃げてきたオランウータンを同じ森に帰すことが行われていました。現在のセンターが抱える最大の問題点は、オランウータンを帰す森が破壊されているということです。なぜなら、油ヤシ農園が拡大しているからです。また、違法伐採や違法な鉱山開発、森林火災によっても森が破壊されています。収容されたオランウータンのなかには、肝炎や結核を患っている場合もあり、また、年齢にばらつきがあり、青年期のオランウータンが多くなっていることも問題となっています。さらに、オランウータンをペットとして国外に密輸する問題もあります。1997年から98年にかけて起こった東カリマンタンでの森林火災では、死んだりやけどを負ったオランウータンも多く、300頭以上を救助し、400頭をセンターで受け入れました。

私たちの事業について詳しくお話しましょう。東カリマンタンのサンボジャ・レスタリにあるセンターには現在、226頭のオランウータンがいますが、すべてが健康だというわけではありません。3～5年のリハビリ後に、健康状態が回復してから森に帰すようにしています。このうち120頭は森に帰す日が近づいています。病気のオランウータンは、サンボジャ・レスタリに今後つくられる予定の自然保護区に帰す予定です。中カリマンタンのニャルメンテンには、612頭が収容されていて、このうち500頭はそろそろ森に帰せそうな程度に健康を取り戻しています。センターには診療所、オランウータン同士が慣れるための共同生活用ケージ、野生にさらに近づけるために水路で隔てた島状の区域などがあります。これらの施設を維持

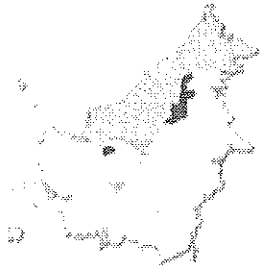
するには大変な費用がかかります。オランウータン1頭を飼うのに年 3,500 米ドルの費用が必要です。また、オランウータンを森に帰すために「森の学校」でいろいろな訓練を行います。ここでは、ベビーシッターや保育係が、特に赤ちゃんのオランウータンに木登りの方法、巣の作り方、果物の探し方など、森の中で暮らすためのスキルを教えています。森の学校を卒業するといよいよ森に帰すことになります。

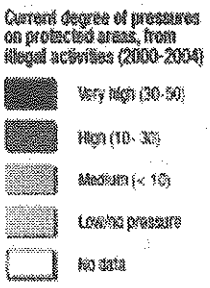
私たちは 2002 年までに 400 頭以上を自然に帰してきました。また 97 年から 2002 年にかけては 300 頭以上のオランウータンを森に帰しました。2002 年以降はそれ以上のオランウータンを自然に帰すことができていません。なぜなら、オランウータンが暮らすのに適した森を探すのが困難になっているからです。

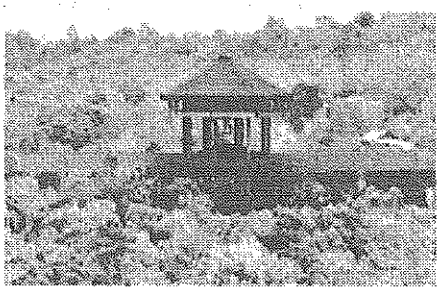
しかし幸いなことに、最近、インドネシア政府から生態系再生のためのコンセッション（ecosystem restoration concession）を取得し、来年4月から東カリマンタンの 86,450ha の区域にオランウータンを帰すこととなりました。中カリマンタンでも生態系再生コンセッションを取得できる見込みで、来年2月から野生復帰を始める予定ですが、まだ最終決定ではないため、当面はアカテスという伐採会社が利用している伐採区に帰すことになります。

私たちは、市民の意識を向上させるキャンペーンも行っています。特に地域社会の人々がこのような問題に目覚め、私たちのプログラムに参加することを促すためです。

また、オランウータンを森に帰したあと、オランウータンが元気かどうかをモニタリングする制度を導入しようとしています。元気に暮らし続け、数が増えていくように見守り続けたいと思います。オランウータンを森に帰す前に、首に IC チップを埋め込むようにしていて、居場所を遠隔から観測しています。オランウータンそしてその生息地を保全するこのような活動にあらゆる関係者が協力してくださることを望んでいます。日本の市民の皆さまからの温かい協力もぜひお願いしたいところです。森に帰すときには、ヘリコプターを使うため、費用が嵩みます。このような事業を100％成功させるのは大変困難ですが、できるだけ多くのオランウータンが生き残っていけるように支援したいと思っています。油ヤシ農園事業家を始めとする企業が事業を続けることに私たちは反対はしませんが、適切な管理によってビジネスを続けてほしいと思います。そうすれば、人間もオランウータンもいつまでも共存できるでしょう。







(図：オランウータンの生息地の危機/右サンボジヤ・レスタリ保護地)

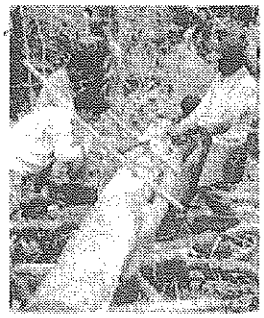
質問：

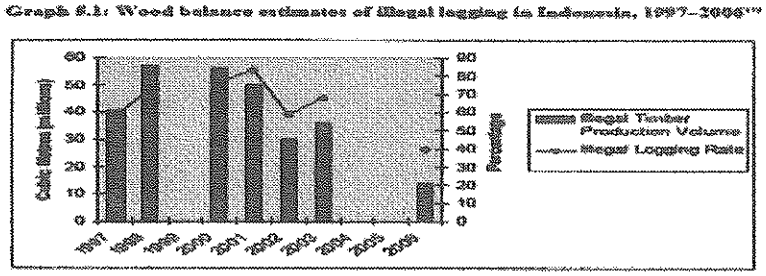
＊地域によってオランウータンの違いはありますか？

「オランウータンには2つの種類がいます。オランウータンが生息している場所は世界中で、スマトラ島とボルネオ島だけしかありません。スマトラ島では特に北部に生息していて、カリマンタン島のオランウータンとは種が違います。カリマンタン島には、3種の亜種が存在しています。東カリマンタンのオランウータンは、中カリマンタンや西部・北部カリマンタンとも異なります。そのため、東カリマンタンのオランウータンは、東カリマンタンの森に帰さなければなりません。ちなみに、ボルネオ島のオランウータンは絶滅危惧種に指定されていますが、スマトラ島の場合はさらに深刻で、絶滅が極めて危惧されている状況と言われています。

＝「インドネシアの違法伐採の現状とその対策」＝

Telapak 違法材キャンペーン・森林保全担当 Yayat Afianto(ヤヤット・アフィアント)さん





(T プティン公園の違法伐採)図:1997-2006 年までの違法伐採の減少(2002 年は60%、06 年 4 割弱)

テラパック(Telapak)は、2004 年からウータン、そして FoEJapan と協力して、インドネシアの違法伐採問題に取り組んできました。今日は森林の生物多様性に対する違法伐採の影響についてお話ししたいと思います。ちょうど生物多様性条約第 10 回締約国会議がこの名古屋で開かれています。この話題は今まさに、日本で重要な問題になっています。

インドネシアは国土の約6割が森林で覆われていて、1万 7,000 以上の島から成っています。面積の上では世界の陸地の 1.3%しか占めていませんが、世界の植物種の 10%、哺乳類の 12%、爬虫類の 16%、鳥類の 17%が生育しています。

これは中カリマンタンのある場所の写真です。この伐採し尽くされた荒野には、かつてはオランウータンが暮らしていました。自分の住む家がこのように破壊されてしまったら未来はないのも同然です。オランウータンは住む場所を破壊され、未来が全く見えない状態に追い込まれています。

インドネシアの森林の減少と劣化の根本的な原因を考えたいと思います。この問題の背後には、二国間・多国間融資、構造調整融資の影響を受けているインドネシア政府の開発政策があります。インドネシアでは、木材は石油・天然ガスに次ぐ外貨獲得源となっています。木材の大半は自然保全地域から伐採されているものです。こうして積み上げられた木材はインドネシアではよく見られる光景ですが、このなかで、どれが合法的に伐採されたものなのか、違法に伐採された材なのかを見分けることは大変困難です。物理的には同じように見えるわけです。

2つ目の根本的な原因は、貿易の圧力です。近年、紙やパルプの需要が世界的に伸びています。特にアメリカ、日本とヨーロッパでその傾向が強くなっています。インドネシアはそのため、自然の森を切り開いて一斉に同じ樹種を植える産業植林に力を入れています。問題の背後には日本も関わっています。なぜなら、日本は紙やパルプの最大の輸入国の一つだからです。

3つ目の根本的な原因は、天然資源が枯渇していくなかでも経済成長パラダイムを持ち続けている点です。インドネシアでは(自然の森を伐採した後に)油ヤシプランテーションを造成することに非常に力を入れています。昨年、インドネシアはパーム原油の世界最大の輸出国になりました。最大の輸出先の一つは日本です。日本では洗剤や揚菓子等にパーム油が大量に使われているのです。

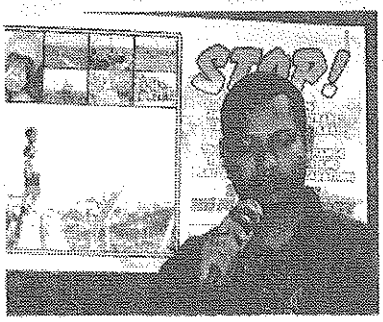
違法伐採は動植物に被害を及ぼすだけではなく、人々に対する甚大な被害も無視できません。特に先住民族は住むところを失うことになります。インドネシアで伐採される木材の8割が違法材だと言われています。国内の未開拓の森の7割に伐採が入ってしまっています。つい先日、パプア州で起こった水害では、200 人が亡くなり、3,000 人が別の場所への移住を強いられましたが、その原因は違法伐採でした。

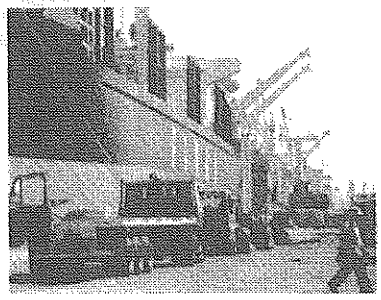
インドネシアの各地で森林火事が起こっています。ほぼ毎年大きな山火事が起こっています。特にスマトラ島とカリマンタン島で深刻です。

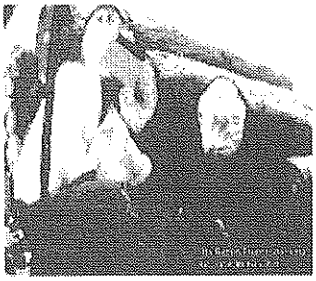
違法伐採対策としてインドネシア政府が近年行った取り組みについて紹介します。2005 年に取り締まりが一斉に実施されました。137 件で容疑者が逮捕されましたが、そのほとんどが起訴されないまま無罪となっています。インドネシアの違法伐採対策は法執行機関の間での連携に問題があって十分に行われていません。また、違法伐採業者は、マフィアの国際ネットワークとつるんでいます。そのため、違法伐採を食い止めるためには他国との協力関係が不可欠なのです。オランウータンの大切な生息域の一つ、中カリマンタンのタンジュン・プティン国立公園では、インドネシア政府軍兵士達が、違法伐採を運び出すために設置された木のレールを撤去するようになりました。近年では違法伐採対策として国際的な提携関係も進展しています。その取り組みの一つはインドネシアと EU とのあいだで実施されている森林法の施行・ガバナンス・貿易に関する行動計画(FLEGT)です。住民達は、地図作りや組合活動を通して、自分で森林を持続可能に管理する能力を身につけ始めました。

最後に、FLEGT のもとで行われている取り組みの一つ、VPA(Voluntary Partnership Agreement:自主的二国間協定)について紹介したいと思います。この制度のもとで、インドネシア政府は最近、木材の合法性を認証する制度を発足させました。今では、違法材の定義も明確になり、木材の合法性を証明する制度も整いつつあります。全体的にみて、近年のインドネシア政府の取り組みが功を奏し、違法伐採対策はかなり進んでいます。しかし、まだ手を緩めるわけにはいきません。インドネシアからマレーシアに向けて密輸は続いているのです。

(写真＊ヤヤットさん/中＊西パプアで違法伐採メルバウ材は大半中国へ/右＊ラミン材違法取引)







質問:

＊地域住民をどのように巻き込んで活動をしておられるのですか？

「テラパックでは現在、特に住民参加に力を入れています。コミュニティを基盤とした森林管理を支援しています。まず地域の人々に協同組合を作ってもらいます。次に参加型で自分たちの地域の地図を作り、それを林業省に送ります。認可されると政府からコミュニティに伐採権が割り当てられることになります。既にスラウェシ南東部のある地域では成功し、その地域からの木材の合法性が国際的に認証されることにもなりました。このような協同組合の成功例を他の地域でも実現させようとしているところです。」

＊警察が押収した木材はその後どうなるのですか？

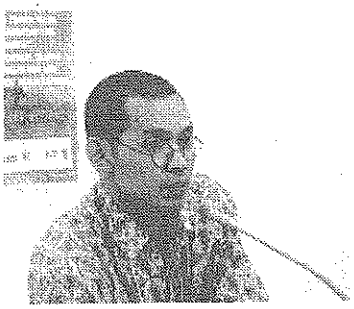
「政府が低価格で競売にかけます。ただ、違法材が競売によって合法材に成り替わるという「木材ロンダリング」の問題が残ることになります。」

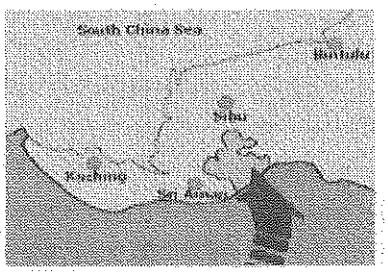
＊警察が違法伐採をしている真犯人を逮捕できない理由は？

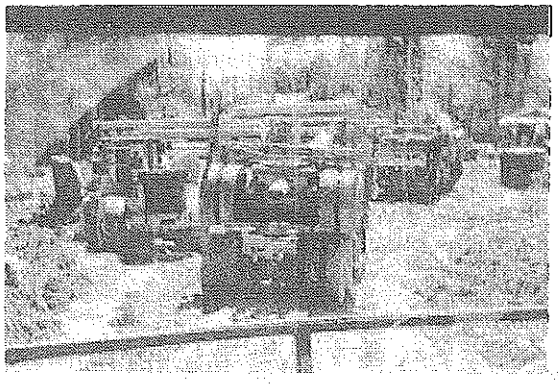
「警察が真犯人をよく知っていることに問題があります。警察と犯人は仲の良いお友達同士です。癒着、汚職、縁故主義が、真犯人を逮捕できない理由です。国際的な連携、協力が必要だということを強調したいと思います。インドネシアは既に日本をはじめとする様々な国と MOU(覚書)を締結しています。」

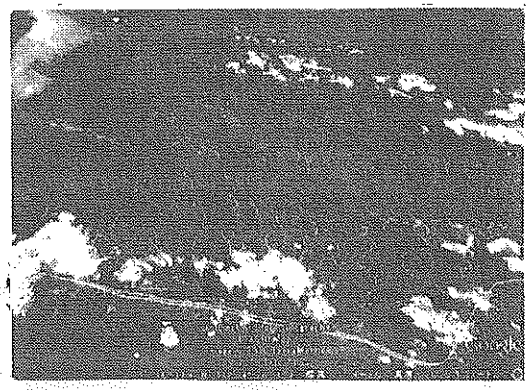
＝「西カリマンタンの違法伐採とオランウータンの密輸」＝

Yayasan Titian(ヤヤサン・ティティアン)事務局長 Yuyun Kumiawan さん









西カリマンタン州とマレーシア国境沿いでの違法伐採、木材密輸、野生生物の密輸の関係についてお話したいと思います。西カリマンタン州の総面積 14,000 万 ha のうち、900 万 ha が森林です。最近の違法伐採の事例を一つ紹介しましょう。約2年前から、この国境沿いでウータンとともに違法伐採の調査を行ってきました。最近も違法伐採の情報が入ってきています。インドネシアのベツン・ケリフン国立公園でサラワク州の企業が国境沿いのエリアで新たに違法伐採が始めています。なぜ国立公園で違法伐採が行われているのでしょう？奥地にあって警察が入りにくい場所だからです。マレーシア側からこの国立公園に伐採道路が食い込み始めています。隣接したマレーシア側の森林では商業伐採が行われています。

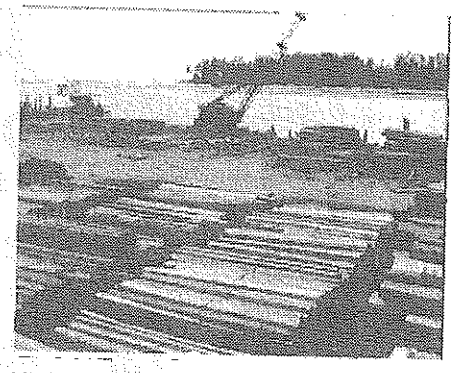
近年は、インドネシア政府による取り締まりによって違法伐採は減少していますが、今度は油ヤシプランテーションの開発という名目で違法伐採が行われています。私たちは、ダナウ・センタラム国立公園周辺で造成されている油ヤシ農園を対象に、これらの造成によってどのように森林が破壊され、違法伐採が行われたのかを調査しました。この周辺で開発許可が出ている森林で油ヤシ農園が実際につくられるとなると、129,000ha もの森林が破壊され、300 万立法メートルの木材が違法に切り出されると見込まれました。違法伐採に当たるため政府は課税ができずに 9,000 万ドルの税収を失うことになるでしょう。この地域には原生林、二次林、湿地林の二次林がありますが、いずれのタイプの森林にもオランウータンが生息している可能性があります。この国立公園とその周辺で油ヤシ農園が開発されているために、泥炭湿地林の乾燥化がすすんでいます。開発が続けば、2025 年には国立公園の湖は干上がるだろうとある研究者は予測しています。

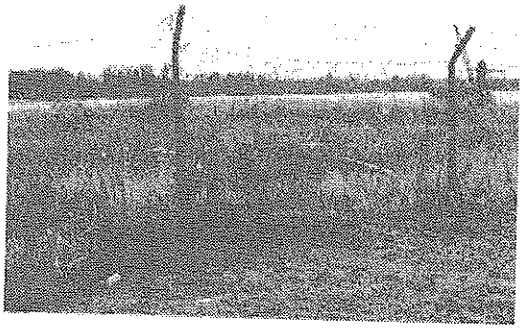
油ヤシ農園開発に絡む違法伐採には、複数の利害当事者がいます。まず、油ヤシ農園会社は区長に働きかけ、同時に伐採会社に連絡をとります。森林局にもアプローチをかけます。地区長は土地利用局や区画整備部門に影響力を駆使し、農園開発を司る役所に対し開発許可を出すように圧力をかけます。

また地区長は森林局や環境関連の役所にも開発許可を出すよう圧力をかけます。油ヤシ農園会社はこのように森林の開発許可を得ることで、油ヤシを植える前に、森林の伐採によっても利益を得ようとするのです。これは一種のマネーロンダリングに近い行為です。つまり、違法に森林を伐採して得たお金で油ヤシ農園を開発するのです。手つかずの森を油ヤシ農園に転換することはインドネシアの法律では認められていませんが、一旦、伐採の手が入って痛んだ森は農園にすることが許されます。そのため、油ヤシ農園会社は、油ヤシ農園を造成したいと考えている森林を、伐採会社にあらかじめ話をつけて伐採してもらうのです。そうすれば、油ヤシ農園を造成する許可が得やすくなるのです。

近年のカリマンタンでは、オランウータンとその生息域にとっての脅威は3つあります。森林の農地への転換、違法伐採と森林火災、密猟と密輸です。オランウータンの密輸に関わっているのは、村人、伐採企業や油ヤシ農園で働く労働者たちです。彼らはオランウータンを売って生計の足しにしているのです。オランウータンは、ペットとして売られていきます。私たちは最近、西カリマンタンでオランウータンの密猟を取り締まるよう、警察に働きかけました。その結果犯人が捕まり、現在、裁判が行われています。今回の逮捕は、90 年代半ば以降、インドネシアでオランウータンの違法な取引が摘発された初めてのケースとなりました。

(2005 年サラワク州セマタン木材企業がインドネシア木材密輸/右＊2010 年、セマタンでなくなった木材)





質問:

＊オランウータンを買うのは誰なのですか？

「私たちの調査では、マレーシア、ブルネイ、シンガポール、タイ、中国等へ密輸されていたことが確認されました。」

＊森林伐採の許可を出すかどうかを、政府はどのように決めるのですか？その許可が適切であるかどうかを評価する機関はないのでしょうか？

「インドネシアには国有林(state forest)と private forest がありますが、カリマンタン州ではどこまでが private forest なのかがはっきりしません。なぜなら森に住む人達は自分たちの森だと考えていますが、政府がそれを必ずしも認めていないからです。また、環境影響評価制度はありますが、機能していないのが現状です。そこで油ヤシ農園会社の一部は、持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO)をつくり、保護価値の高い森林は開発対象外としています。ただ、小規模の農園会社は RSPO に加入していない割合が高いことから、政府の環境影響評価制度と RSPO の取り組みを合わせた新しい制度をつくるべきだと主張する NGO もあります。」

(まとめ・相楽美穂)

(＊東京集会は 85 名ほどの参加。FoEJapan,GEF,JATAN の皆様、共催有難うございます。)

名古屋議定書 採択

CBD10Nagoya　10月30日 朝 日

生きもの会議

遺伝資源 利益を配分

生態系保全「愛知目標」も

名古屋市で開かれた生物多様性条約＝☞＝第10回締約国会議（国連地球生きもの会議）は30日未明、医薬品のもとになる動植物など遺伝資源の利用について定める国際ルール「名古屋議定書」と、生態系保全の世界目標「愛知ターゲット」を採択した。条約の根幹をなす二つの主要議題をめぐる交渉は、先進国と途上国の激しい対立で難航したが、議長国・日本は、期限ぎりぎりで期待された成果をまとめあげた。

＝3面に関係記事

名古屋議定書への合意が成立し、拍手する各国代表ら＝30日午前0時26分、川津陽一撮影

生物多様性条約

193カ国・地域が加盟。目的として①生態系の保全②持続可能な利用③遺伝資源の利益配分を掲げる。名古屋議定書は③を実現する仕組み。この仕組みづくりを嫌って、米国は条約に参加していない。

名古屋議定書は、企業が医薬品や食品の開発につながる動植物や微生物を利用した場合に、金銭の支払いや共同研究への参加を通じて、資源がもたらす利益を原産国と分け合う国際ルールだ。

会議では、世界中の自然を利用して発展した先進国と、植民地時代から資源を持ち出されてきた途上国の主張が対立。事務レベルの交渉で合意できず、議長の松本龍環境相が、各国の閣僚と協議した結果をふまえて議定書の議長案を提示し、各国が合意した。

議定書は、資源を利用する場合に事前に原産国の許可を得ることや、利用者が原産国側と利益配分のための個別契約を結ぶことを定めている。

争点だった不正な持ち出しを監視する仕組みは、手続きが適正かチェックする機関を利用国側にも一つ以上、設ける。利益配分の対象範囲は、研究開発で資源を改良した製品（派生品）の一部も含むことができるとした上で、契約時に個別判断するとした。途上国は、議定書発効前に利用された資源も対象にするよう求めたが盛り込まれていない。代わりに、途上国が議定書のルールを運用する体制づくりを支援する仕組みを、日本の資金で整備する。

一方、2020年までの世界目標は松本環境相の提案で、名古屋ではなく採択の地の県名を冠して「愛知ターゲット」と名付けられた。野心的な目標を求める先進国と、高い目標が開発抑制につながるのを懸念する途上国の主張が対立。30日未明も交渉が続いたが、多くの折衷案が出されて採択にこぎ着けた。個別目標は、魚の乱獲を避ける▽侵略的外来種を根絶するなど、20項目にのぼる。

愛知ターゲットの20項目

The Asahi Shimbun

認識	生物多様性の価値と持続可能な利用のための行動を認識する
政府計画	生物多様性の価値を開発戦略と統合、国の会計制度などに組み入れる
有害措置廃止	条約などと整合するよう、多様性に有害な奨励措置を廃止する
関係者	政府や企業などが持続可能な計画を実施する
自然生息地の損失速度	すべての自然生息地の損失速度を少なくとも半減させる
漁業	魚や水生生物を生態系に基づいた方法で管理・捕獲し、乱獲を避ける
生態系回復	悪化した生態系の15%以上を回復する
農林業	農・林業地域を、生物多様性を保全しながら管理する
過剰栄養	富栄養化を含む汚染を有害にならない水準に抑える
外来種	侵略的外来種とその移入経路を特定し、制御または根絶する
気候変動	気候変動など脆弱（ぜいじゃく）な生態系への人為的圧力を最小化する
保護地域カバー率	特に重要な陸・内陸水域の少なくとも17%と、沿岸・海域の10%を保全する
絶滅危惧種	既知の絶滅危惧種の絶滅を防ぎ、最も減退している種の保全状況を改善する
栽培種の遺伝多様性	作物や家畜の遺伝子の多様性を維持する
生態系サービスの公平なアクセス	生活に不可欠なサービスを提供する生態系を保護する
国家戦略	効果的で参加型の、戦略を策定する
伝統的知識	先住民と地域社会の伝統知識と持続可能な利用を尊重し、保護
資金	戦略計画を効果的に資金動員を増やす
科学技術	科学的基盤、技術を改善し、共有、移転、適用する
ABS	国内法令に従って発効し、運用される

CBD10(第10回生物多様性条約締約国会議)参加・名古屋議定書制定！から

大ピンチ？から‥計画的な「逆転満塁ホームラン」? でも今からだ！

西岡良夫

CBD10(第10回生物多様性条約締約国会議)を日本が引き受けたが、初めからピンチだった。それは日本版「生物多様性条約」を作成したK氏が3年半前に、環境省の生物多様性条約の部署に戻ったが、何と1年半前に転課したのだ。

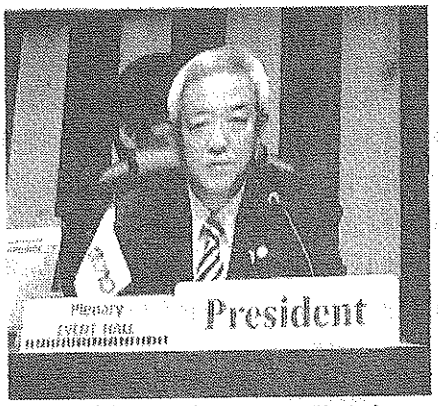
今回会議は3つのセクションと、統括するセクションの各リーダーとサブ・リーダーが必要であり、民主党政権になった環境相の「デキ」が読めなかった。新人ばかりで国際会議の運営は困難。環境省は【里山イニシアチブ】にこだわり、今後の展開が必要で、今までの総括すべき事項も決定できない恐れが十分にあった。ウータンでもこの期に3名のゲストを呼ぶことを今年の春から決めた。「博打」が不発になるかも知れぬ予感もあったが、、。

新聞各紙もCBD10名古屋が始まる前から、今回の会議に対し途上国と先進国の対立が明白となり、「議決困難」とやっと報じだした。殆ど絶望的な状況で迎えたCBD10の開幕式。

最終日、環境相・松本龍議長は英語が余り判らない(?)事もあり、どんどん議決すべきことを進めた。「その点はまた後日詰めましょう」と堂々たる議長。議長のこの発言、進行方法で議決できるだろうと29日、昼過ぎに予感した。私は日下部君に「これは決まる! 他のブースにも知らせるぞ」と。

温暖化防止バリ会議の場合、日本の環境相はあまりにも知らぬ、また英語が理解できず、各国が発言修正したのに変更なしの演説で恥かいた日とはまったく違う。内野席はハラハラどきどきだ。

最終日はなんと「逆転満塁ホームラン」。名古屋議定書決議。松本大臣、新規のスタッフの努力。「知らなければいけない点も無視して」運営した今回の国際会議は、驚きであった。「瓢箪からこま」であり、それへ導いた大臣、スタッフに全く感謝。普通なら英語が全く駄目な大臣なら議事をさばけなかった。弱者の立場を尊重して、途上国の考えをまとめた大臣だから成功した。29日夜、議決が決まらないうちに、私は「決議する！」と海外等へメールを送信した。これからは法案の改正だ！



(左・環境相・松本CBD10議長/右＊CBD10最終日多様性条約ホール内、どちらも10月29日)

CBD10（第10回生物多様性条約締約国会議）議決へ

生物多様性条約国際会議（COP10）に参加して思うこと

（春日直樹）

1、生物多様性条約・国際会議場にて

登場エリアで入場許可書の発行を受け、セキュリティチエック（X線透視装置、金属探知機、液体物検査装置）箇所を通り会場に入る。ペットボトルの飲料水もチエックされる。政府要人が出席するためにセキュリティが厳しい。中庭の騎士像が目立つ。広場にインフォメーション・センターが設置され、入場者に配布物を渡していた(注)。中庭の大きなテントで、打ち合せをする人や談笑するグループなどが見られた。

国際会議の規模が大きく、広い会場に圧倒され、戸惑うことばかりだ。会場アナウンスは英語であった。ガイドブック頼りだ。場内禁煙である。参加者向け広報資料コーナーが各階に設置されていた。パンフレットや資料が膨大である。展示配布物、文書、紙の多さにびっくり。環境負荷を低減するため回収に工夫されていた。廃棄物の分別回収だ。

国連の公用語は六ヶ国語（英、仏、スペイン、ロシア、アラビア、中国）で、日本語の通訳は無かった。語学の必要性を痛感する。インターネットが使えるサイバーカフェがあり、パソコン50台以上並んでいた。全体会議場や分科会会場で会議が進行していた。環境省やUNESCO（ユネスコ）のパネルもあり、ロビーには海外の人々が多く見かけ、国際会議の雰囲気があった。また自然のメッセージを張り合わせた大きな鳥が目を引いた。

日本の周辺地域が緊迫化するなか、東アジアにとっての最善の安全保障は、生物多様性を維持し、生き物と共存することである。その意味でも、名古屋の生物多様性締約国会議（COP10）で10月30日採択された「愛知ターゲット」と「名古屋議定書」が、日本や世界のすべての生き物（人類を含む）の安全保障にとって大きな意味を持っている。2020年に向けて、世界共通の目標が出来、今後の取組みと成果が期待される。

「2020年までに健全な生態系を確保し～」「～生物多様性の損失を止めるための効果的な緊急行動を起こす」「～生物多様性への圧力を減らし、生態系を回復させ～」「～遺伝子資源の利用から生まれる利益を公正かつ公平に配分し、十分な資金を提供する」とした生態系保全の世界共通目標が採択された。議長国日本は実例を世界に示すべきだ。

先ず、ジュゴンの棲む辺野古の海域を自然保護区に指定し、埋立てを中止する。山口県の上関原子力発電所建設を中止し、生物多様性が保たれている原発予定地と周辺海域を国立公園特別保護区とするなど、長年に亘り地元と折り合いの付かない開発計画は、国家戦略として計画を中止し、白紙撤回すべきだ。国家戦略の具体化のために法整備が急務である。

「愛知ターゲット」を成果在るものにするため、2020年に向けて具体的な新国家戦略を行うことが重要だ。①生物多様性の継続が人類にとって必要なことを世界に訴え、②絶滅危惧種を出さないことを肝に銘じたい。次回の会議は2012年10月、インドのニューデリーで開催する。

議長国を2年間務める日本は、真のリーダーシップを発揮する責務がある。

(注)COP10を理解するため～生物の多様性に関する条約第10回締約国会議議事及び議題に関するガイド＆プレス等

2、名古屋集会とCBD白鳥会場に参加して

ウータンの面々は名古屋集会(10月23日)の資料を持って、名古屋市女性会館に行き、JATAN名古屋の平井さん、加藤さんと共に会場準備した。

インドネシアからのゲスト4名(トグさん、ヤヤットさん、ユユンさん、自費参加のエミリアさん)に現地の状況を報告してもらった。参加者 30 名弱は通訳のトムさんの巧みな日本語で話の内容が分かり易かった。

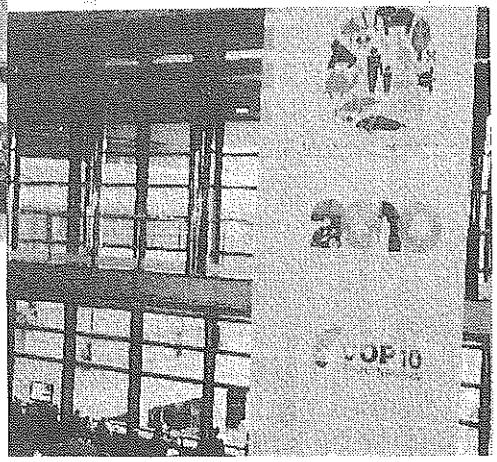
「オランウータンの森に何が起きているのか」「また森を守るために何が問題なのか」「違法伐採や油ヤシ・プランテーションの問題がクローズアップされ、現地の人々の協力を得ることの難しさ」などを知ると共に、「こども達の教育の大切さ」も痛感した。集会後、平井さん紹介のお店「バオバブ」で懇談会(参加者15名)をした。翌日、資料をお店に忘れ、白鳥会場まで届けてもらうハプニングがありました。

白鳥会場は国際展示場等が開催され、国内外の政府や自治体、国際機関、NGO/NPO、企業など208 ブースが出展。ウータンのブースの隣組は、北九州ビオトープ研究会、日本野外生活推進協会、富士山クラブなどで、お互いに交流を深めることが出来ました。

学生時代の旧友や懐かしい知人に会うことが出来ました。ウータンのブースに訪れ、熱帯林の破壊や違法伐採やオランウータンのことに関する説明を求める人が多くいた。大きな声で説明していた私自身は、声が嗄れてしまいました。情報収集の重要さを感じると共に、私自身の勉強不足を痛感しました。各地で元気に活動を続けている多くの人々と接し、直接話を聞くチャンスに恵まれたことは、今後の活動にヒントをもらったように思います。

ウータンの会員を増やすためにも、熱帯林の状況や問題についての勉強会、現地報告会など、多くのイベントが必要だと思います。また、現地調査やインドネシアの報告会などを若い人・学生にしてもらうことも、会員獲得の一つだと思います。海外に行くチャンスが多くあることはウータンの会員の魅力につながると感じています。

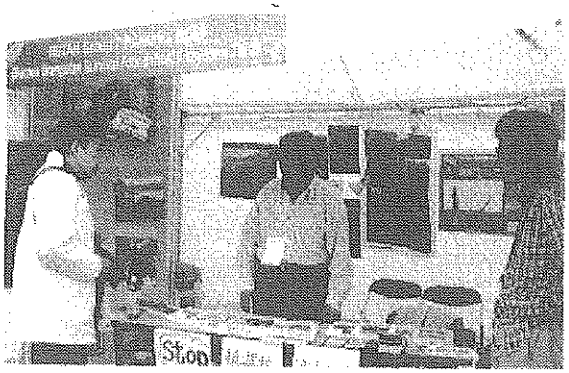
(写真＊ウータン等の共同ブース展示場のエミリアさん/右＊国際会議場メインの入り口から)



CBD10名古屋から

—HUTANを盛り上げて行きたい—

日下部卓



長年、ボルネオの先住民、そして違法伐採の問題に関わってきた団体として、ぜひ参加しようということで、生物多様性条約 COP10 でブース展示を行いました。その前に、名古屋市でインドネシア NGO の Telapak(テラパック)、Yayasan Titian(ヤヤサン・ティティアン)、BOSF(ボルネオ・オランウータン・サバイバル・ファンデーション/Borneo Orangutan Survival Foundation)を招いて講演会が開かれました。

Telapak のヤヤットさんがインドネシアでの違法伐採の歴史と現状の概要を、Yayasan Titian のユユンさんが東西カリマンタンの各地域での違法伐採の詳しい状況を、BOSF のトグさんがオランウータンの保護と再導入を行っている BOSF の活動内容の紹介をされました。ユドヨノ大統領はじめインドネシア政府の働き(その影には現地 NGO の働きかけがあるのはもちろんですが)により違法伐採が落ち着いてきているものの、地方ではまだ続いているとのことでした。マレーシアでの COP7で「国境地域の保護地域保全」が宣言されたにも関わらず、サラワク州政府の取り組みがまだまだ甘いようです。最後に、我々日本人一人ひとりができることに関する話題になりました。ヤヤットさんは「消費者は持続可能な管理をされた森林から作られる商品には高い費用を払うべき。市民の環境に対する意識を高めてほしい」と言われました。

インドネシア国内でもなかなか市民の環境意識を高めるのは難しいようで、「インドネシアの多くの市民にとって、違法伐採やオランウータンの絶滅の問題はとても遠くのこと」とも言われました。確かにインドネシアは今経済成長の真っ只中なので、一見それに逆行するような自然保護にはピンと来ないのも不思議ではありません。それと比べて、日本は経済成長のその先を経験しています。インドネシアでは、いわゆる先住民と言われる人も含めて、未だに自然と共に暮らしている多くの人々がいます。彼らを都市に向かわせるだけではなく、自然と共に暮らす生活を応援することは、我々日本人の大切な役割だと思います。

生物多様性交流フェアで多くのブースが開かれ、その中の端っこに HUTAN のブースが設けられました。HUTAN のブースは、テントの中一面に、長年西岡さんや峠さんが撮られてきた写真を貼り付けました。オランウータン、ギボン、木をなぎ倒すブルドーザー、アブラヤシプランテーション、道路封鎖のプナンの人々、焼畑の風景。ブースに来られるのは名古屋市民の方が多く、一つ一つの写真について説明すると皆興味深く聞き入っていました。「ほとんどのブースは、自分たちの活動の素晴らしさについて宣伝しているけど、このブースは雰囲気が違うね。がんばってください」と言ってくれた人もいて大きな励みになりました。何人か HUTAN の活動に興味を持ち、連絡先を書いてくれた人もいました。一方で我々日本人がボルネオの森林伐採に深くかかわってきたことについて知らない方が多いことに驚きました。BOSF のトグさんとエミリアさんが持って来てくれたオランウータンの写真付きのポストカードも配りました。子連

れのお母さんが何組か来られ、「わぁ、オランウータンだ、かわいいね～」と言ってポストカードだけ貰って去っていきます。おそらくオランウータンのことは、動物園やテレビなどで知っているのでしょうが、今現実にいるスマトラやボルネオのオランウータンとは意識がつながっていないと感じました。私たちは普段身の回りのことに追われていつの間にかとても狭い世界で生きてしまっています。動物園にいる動物をとってみても、いつの間にか、その動物たちははじめからそこにいるものだと思い込んでしまっています。しかし本当はそうではない。その動物たち一匹一匹の背後には、はるか遠くの世界が広がっている。そこには彼らの仲間がいるし豊かな自然もある。もしかしたらその近くで暮らしている人々もいるかもしれない。このことに気づくことには、喜びがあります。素人くさいですが、この喜びを分かち合っていくことも、HUTAN の、市民に対するひとつの役割だと思います。オランウータンのポストカードには、ひとつひとつ名前が書いてあります。エミリアさんに聞いてみると、BOSF は、リハビリテーションセンターで育てているオランウータンの里親を、各事務所で募集しているらしく、名前は、里親の名前ということでした。日本人の里親はまだ一人もいないということなので、皆さん、里親になりませんか？一匹のオランウータンに対して何人かと一緒に里親にもなれるそうです。

生物多様性交流フェアの横の国際会議場では、生物多様性条約第 10 回締約国会議が続いていました。実は、肝心の団体登録の再送付をうっかり忘れていたため、会議場内に入るのは諦めていたのですが、当日の西岡さんの数時間に渡る粘り強い交渉により、入ることができました。その夜、突如として、会議場内のオープンスペースにある机に、Global Witness（グローバル・ウイットネス）と EIA（イーアイエー）の面々と、JATAN の川上さん、FoE JAPAN の三柴さんが集まって、最近日本の 10 近くの NGO が政府に提出した「木材調達ガイドラインの強化に対する提言」についての議論が始まり、その少し後、仕事のため、「あとはよろしく。議論をフォローできるところはメモしといて」と言い残して西岡さんが去っていきました。まず英語がほとんど聞き取れません。メモもほとんど取れませんでした。ここで感じたことは、国際的な NGO と渡り合うには英語ができないと話しにならないこと、そして、海外の NGO スタッフは本当にプロとして活動しているということです。HUTAN の良いところは、メンバーが普通の市民からなっている所だと思うのですが、海外の NGO と渡り合うにはプロが必要なのかな、とも思いました。後日、石崎さんが合流して、一緒に冊子『Save! The Rainforest in Borneo Stop! Illegal Logging, Trade』を会場内で配りました。

石崎さんが名刺を持っていたので、10 人以上の方と名刺交換ができました。最終日には、満員の会場で松本議長が名古屋議定書を採択している様子を見ることができ、国際会議の迫力を間近に感じることができました。

この期間中、Yayat（ヤヤット）さん、Yuyun（ユユン）さん、Togu（トグ）さん、Emilia（エミリア）さんの付き添いもしていました。皆、エリート中のエリートにも関わらず、とても気さくです。Togu さんと Emilia さんが、なぜか大須観音の近くの商店街に行きたいと言い出して、連れて行きました。Togu さんが靴が欲しいと言うので、靴屋を見て回りました。「全部中国製だね～」と言いながら歩いていると、なんとミャンマー製の靴があります。Togu さん、即購入、履き始めました。その後、ホテルに向かって帰るまでずっと、「ミャンマー製！」と自慢していました。Yuyun さんとは、一晩ホテルの部屋が一緒になり、いろんな話を聞くことができました。お父さんがインドネシア政府の諜報部員で、幼少期に情報の集め方や読み方の訓練を受け、それが今の違法伐採の調査に役立っている、と聞いたときはとても驚きました。彼らと接していて HUTAN との信頼関係がしっかりできているなぁ、と感じました。石崎さんから教えてもらい、今年の初めから HUTAN に関わり始めてから、本当にさまざまな経験をさせていただくことが出来ました。この経験を生かして、今後の HUTAN を盛り上げていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

世界の森林ニュース/World Forests News

2010年9-11月

(By Nishioka)

【EU、違法木材法施行を2010年10月可決】
10月11日、EUの「違法木材法(ITL)」がEU加盟各国における規制強化や必要な手続き等のための27ヶ月の準備期間経て、2013年1月に正式に施行される。EU加盟国のほぼ満場一致で承認。反対票は何故かスウェーデン、ポルトガル。(ITTO)

【11月、EU、カメルーンとも違法材排除へ合意】
EUはアフリカ最大の対EU木材輸出国カメルーンと違法伐採対策に関する自主的2国間合意(VPA)に調印。これはEUが推進のFLEGT(森林法施行、ガバナンス、貿易)と呼ばれる違法伐採材の水際対策の一つで、生産国支援とセットの取組み。ガーナ、コンゴに続き調印が進み、違法伐採の取組みはマタガスカル等に広がるべき。(資料:ITTO)

【2000-10年は520万ha森林減少減る】FAO
国連食糧農業機関(FAO)は、世界の森林資源につき『2010年世界森林資源評価』を10月に内容発表。主に熱帯林の農地転用の森林消失は10年間で減少したが、多くの国で依然として憂慮する状況が続くと。1990年代に森林減少が最も大きかったブラジルとインドネシアは減少率がかなり下る。中国、米国、ベトナム等で植林と一部の森林の自然増で、年700万ha以上の新森林が増加。結果、2000年ー2010年森林消失面積は年間520万haで、1990年代の年間830万haより減少。南アメリカ、アフリカで森林消失が大きいと。(資料:FAO)

【西パプアで、違法伐採により惨事発生】
招聘のTelapak・ヤヤット氏から集会で講演報告があったように、西パプアで145人の死亡者を出す洪水。主因が違法伐採であった。これにつき、インドネシア林業省は「当局等の専門家が調査を開始」と発言。(資料:Telapak)

【生物多様性条約CBD10、名古屋議定書採択】
10月10日から名古屋で開催の生物多様性条約・第10回締約国会議(CBD10)は同月30日未明に「名古屋議定書」採択。各政府等が持続可能計画を策定・実施し、全ての生息地の損失速度を半減させ、悪化した生態系の15%を回復させ、不正な持出しを停止・監視する機関を設置できるかが鍵となる。今会議で、動植物などの遺伝資源の利用につき原産国の許可を事前に得ること、利用者(国)が原産国側と利益配分の個別契約を結ぶこと、議定書の適用時期につき過去に遡らずとの内容で、生態系保全の世界目標が採択。締約国は立法、行政、政策措置を実施し、米国等の条約非加盟国へ議定書の批准するよう期待と。陸域で17%、海域10%の保護区を設定し、2011年2月に発効へ。
「のめる内容でない」と採択危ぶまれた会議は、日本の同条約策定の中心者が部署変えにあったが、松本環境大臣や新スタッフが努力。(各新聞より)

【絶滅危惧種は1年で1060種増、IUCN報告】
国際自然保護連合(IUCN)は2010年度版を10月27日にCBD10名古屋で報告。絶滅危惧種は55,926種のうち18,351種に上り、昨年より千種強増加、絶滅危険度高い種は3565種と。農地拡大、森林伐採等が要因と。(資料:各新聞より)

【ウォルマート社が中国の森林認証推進?】
世界最大の小売業ウォルマート社は10月21日、国家林業局中林天合(北京)森林認証センターと共同で「環境の持続可能な発展のための協力に関する覚書」に署名したことを発表。中国は森林認証の発展を共同で推進し、認証システムのPR宣伝を図る。ウ社では最近、2015年までに自社ブランドの製品に使うパーム油について森林破壊につながらない方法で調達を義務付け、牛肉についてはブラジル・アマゾン川流域の不法伐採地で飼養の牛による製品の調達を停止すると。(フェア・ウッドNews)

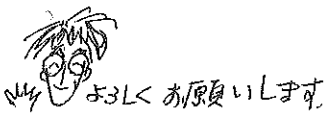
「ウータン・森の通信」９９号によせて

米澤興治

「ウータン・森の通信」に、はじめて書いた文章は、わが家を国産材で建て替えたことの報告だったと思います。それから、講演会の記録や報告を何回か書いたと思います。その中で特に印象に残っているのは、パプアニューギニアとソロモン諸島の森を守る会の清水靖子さん講演です。清水さんの話のなかで、パプアニューギニアの熱帯材が、大阪の阪南港にたくさん来ているというので、阪南港に見に行ったり、合板工場に見学に行ったりしました。たぶん、それがきっかけで環境教育のスライドをつくろうということにもなったと思います。

ウータンに参加して、とても良かったことは、環境問題に取り組むいろいろな人々との出会いがあったことです。西岡さんのパワーにはいつも圧倒されてしまいますが、ウータンにかかわってこられた多くの方々から、多くのことを教えていただいただけではなく、パワーと元気をたくさんいただきました。とくに、日本にやってこられた先住民や現地のNGOのかたがたとの出会いは大変貴重なもので、感動の連続でした。最近は、体力的な限界もあり、平日の夜の会議への参加はむずかしくなってきましたが、これからも、できるかぎりウータンへの関わりはつづけていきたいので、よろしくお願いいたします。

井下(いのした)です。



ウータンに参加して、ン十年です。

伐採に身体を張って抵抗するサラワク先住民の写真をみて、それが日本の熱帯材消費のせい！？とショックを受け、ウータンに参加。

最初はいろんな活動に夢中でした。サラワク先住民や、今は亡きブルーノ・マンサー(サラワクのプナン人と共に森に暮らし、森を守る活動の最中、行方不明に。多分暗殺された)を招いての集会。熱帯林連続講座、自治体への働きかけ、パネル店、バザーへの出店、さらにはコンサートなどなど‥。

失敗もあったが、少し前進したかな、と思うところもあります。

しかし、破壊はますます深刻！！

インドネシアのNGOからの要請で違法伐採に取り組みだした頃から，仕事の責任も重くなり、例会に出られない日も増えました。だいぶへバってきたし‥(T T)

現地に詳しい若手に教えられつつ、若返りもかねて、自分にできることをしようと思います。

(ナイショですが、猪突猛進の事務局長に、時々「待った！」をかけるのも役目)(^O^)

「ウータンも目にやさしい大きな字にして！」といつも主張しています

HUTAN ACTION SCHEDULE

＊1/29(土)P1:30-4:30 第22回ウータン総会　於＊環境省地球環境館

場所：地下鉄・京阪線/天満橋駅から東へ徒歩2分 OMMビル内　Tel)06-6940-2001

＊ウータン2010年の反省・成果等-違法材関連、CBD関連、泥炭湿地の植林等	
＊2011年の活動の取組み案	＊2011年「国際森林年」にむけた取組み
＊会計報告、助成金等	＊組織担当の一部変更　など

＊2/5-2/6「ワン・ワールド・フェスティバル」AM10:00-P5:00 於＊国際交流会館

場所：近鉄・上本町、地下鉄・谷町九丁目駅下車、徒歩約10分

＊　今年はウータン総会と週が違い、ウータンも参加します。

《会費、カンパを頂いた方々》(2010年9月14日～2010年12月4日)

(敬称略)

石崎雄一朗　H.I.　笠原英俊　春日直樹　木村久吉　日下部卓　澤井敏郎　田岡めぐみ
畠山誠子　細川弘明　M.M.　米澤興治

(ありがとうございました)

《おたよりから》(敬称略)

☆88才は人生おしまいに近くなりましたが・・・心だけのカンパです。がんばって地球の森を守って下さいますよう。　(10/21)(木村久吉)

〈お知らせ〉会計の交代が事務手続の都合で来年になりました。

すみません、またウータンHPの変更です。　http://www.hutang.jimdo.com

ウータン・森と生活を考える会

【OFFICE】〒530-0015 大阪市北区中崎西1-6-36
サクラビル新館308
「関西市民連合」気付
Tel.06-6372-1561
http://www.hutang.jimdo.com

【一部】300円【年会費】4000円
【郵便振替】00930-4-3880

◎購読希望の方は郵便振替で申し込み下さるか、又事務所までご連絡下さい。
◎ウータン定例会は、毎月、第2、第4火曜日7:00pmより「関西市民連合」事務所にて行っております。

PRINTED ON RECYCLED PAPER